

2014/4/23

ライツ株式会社/佐藤

全国木工機械商業組合 2014 年 4 月号原稿 :


テーマ : ニュールンベルグの展示会にみる木工のトレンド

皆様、お元気ですか。 長い長い冬が終わり、気持ちの良い季節が始まりました。 私事ですが今冬の雪は凄く、2月14日の大雪で出張帰りに高速道路に20時間程閉じ込められると言う貴重な体験(?)をしました。 4月から「消費税 8%」がスタートし、市場が少し影響を受けていると感じます。 今はお客様の方もあらゆるコストカットのための情報を集め、今年後半からの設備投資を目指して懸命に動かれています。 より一層の顧客満足を提供するために、高能率生産へのサポートをしていきたいと考えます。

ドイツ・ニュールンベルグの展示会訪問 :

3月26~29日にドイツのニュールンベルグにて行われたフェンスターバウ (Fensterbau 窓と資材展)/ホルツ-ハンドヴェルクメッセ (Holz Handwerksmesse 木工機械展)の2展同時開催を訪問してきました。 約3/5が窓展、2/5が木工機械展の併設でした。

NÜRNBERG, 26.-29.3.2014

 fensterbau
frontale 2014

MESSEBEGLEITER
EXHIBITION GUIDE



frontale.de



Parallel zur | Parallel to



HOLZ-HANDWERK

NÜRNBERG MESSE

フェンスターバウ/窓の展示会 :

フェンスターバウは、日本からの来場者は決して多くありませんが、窓市場に関係の深い人にとっては重要な展示会です。 丁度ケルンのインターツーム (Interzum) が家具部材の最大の展示会と同じように、窓の展示会がフェンスターバウです。 出展社は窓、金物、樹脂サッシ押出素材、アルミ型材、ガasket、接着剤など付属商品のメーカーが主です。 今年は初めて日本から YKKAP 社が木製大型引き戸を展示しました。 2012 年 3 月にドイツで施行された窓の省エネ基準 (ENEV2012) で販売される窓の熱貫流率 (1 m²の窓面積から 1 時間に逃げる熱量) が 0.9~1.1W/m²·K に規制され、断熱/気密が厳しくなった分、今後の課題は完全密封に近い家/部屋から「如何に上手に換気をするか」だとか。 さすが省エネ先進国は違います。 ちなみに先進国は殆どの国の規制で熱貫流率 2W/m²·K 以下だと言うのに、日本はまだ東京以西で窓の熱貫流率 4.65W/m²·K (!) です。 冷暖房の熱は窓から逃げていきます。 日本の電気の無駄遣いはいつになったら改善され

るのでしょうか…。 昨年のドイツで発表された窓の製造比率は、樹脂サッシが 58%、木製窓と木+アルミ(アルミクラッド)窓が 24%、残り 18%がアルミ/鉄との話がありました。 日本では木製窓のシェアがまだ 1%強ですので、国産材を使った高断熱窓が日本の木工所でより多く生産され、日本中に普及する事を切に願います。



庭に向けた高級感のある大型掃き出しの木製ドア(引き戸)。



ペアガラスやトリプルガラスを用いた断熱/気密に優れたウッドサッシ

ホルツ-ハンドヴェルクメッセ/木工機械展：

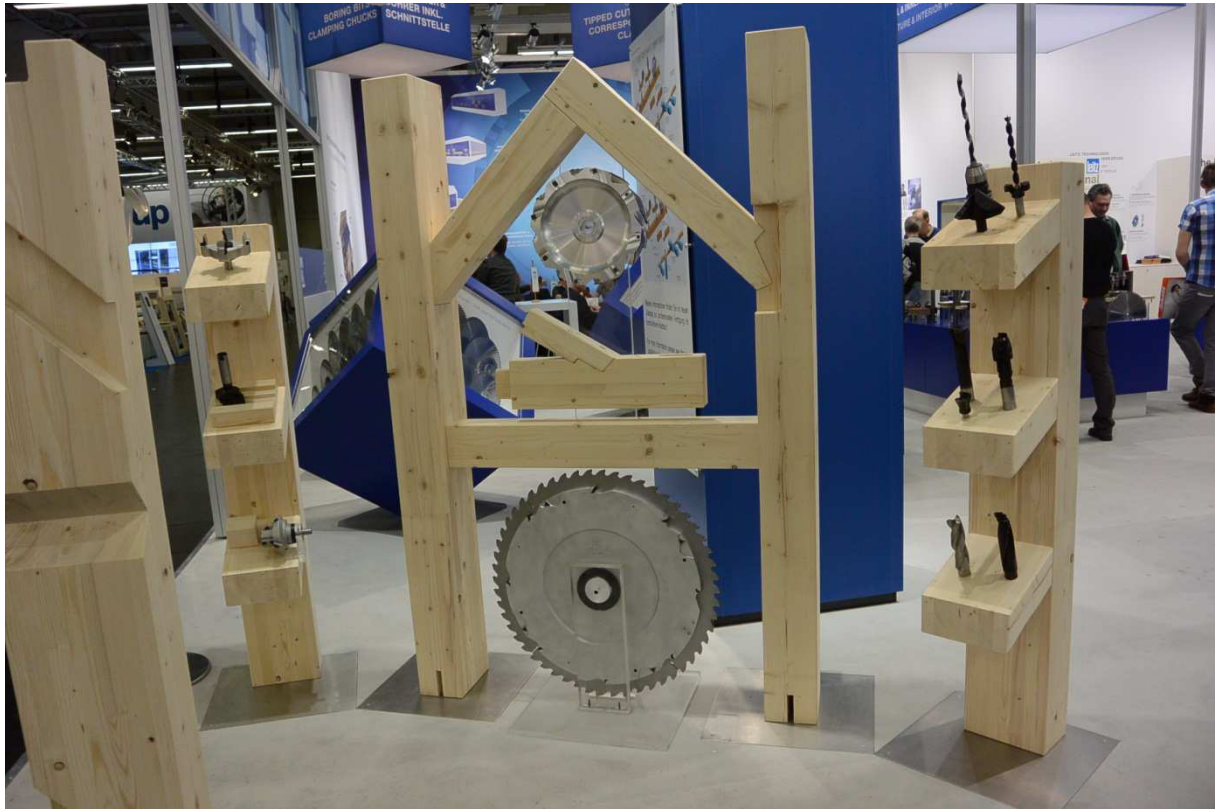
ホルツ-ハンドヴェルクメッセは、ホルツ(木)の言葉通り木工機械をメインにした展示会です。当初は電動工具や汎用機の展示会だったものが、今では搬送搬出込みの全自動の NC マシンも含めた大型機も展示されるようになりました。そこにはライツ社、ホマッグ社、ヴァイニッヒ社、ホルツヘル社、SCM 社、ビエッセ社など署名メーカーが小間を大きく取り展示及びデモをしていました。木工機械展最大の Ligna ハノーバー展の来場者が約 9 万人に対して、この展示会では 2012 年の約 9.9 万人から今年 10.8 万人に 1 割増えたとの報告もあり、ヨーロッパの木工機械と刃物メーカー(特にドイツ勢)にとって Ligna 展に次ぐ重要な展示会になってきています。窓展との併設でしたので、機械メーカーの展示もウッドサッシを意識したものが多く見られました。ヴァイニッヒ社コントレックス、ホマッグ社 BMB、SCM 社アコード、ビエッセ社ユニラインなどウッドサッシを作るデモがされていました。近年のトレンドは「5 軸制御 NC による水平アグレガートを使わないフレキシブルなソリューション」と「4 軸 NC とアグレガートの組合せにこだわる」2つの選択肢です。ソフトと CAD/CAM の充実から 5 軸で全てをカバーする考え方と、関節の少ない 4 軸制御により故障原因の減少とアグレガートを消耗品として考えるものに両極化しているようです。



NC によるウッドサッシ加工

ティンバー・コンストラクション/木造建築：

もう一つの世界のトレンドとして「ティンバー・コンストラクション」と呼ばれる木造建築材加工が注目されます。日本では梁と柱加工の「プレカット機」として認識されています。欧州では梁柱(と屋根)用プレカット機とツーバイ及び CLT(クロス・ラミネーテッド・ティンバー)の大板加工のガントリーNC機が開発されています。日本のプレカット機との相違点は、5軸のATCが主流と言う所です。



ライツのブース正面に置かれた木造建築(ティンバー・コンストラクション)用ディスプレイ



CLT 加工に使用されるラフィングカッターや板面切削用バーチカル兼溝突きカッター



削り出しのモノブロックカッター



アリ加工用重切削カッター

終わりに：

木材は環境にやさしくエコな材料です。樹脂で代用を考えようとするれば、石油等化石燃料への依存を指摘され、アルミ/鉄を考えれば膨大な電気量消費(=CO²排出増→温暖化)の問題を指摘されます。世界で木材の有効利用が謳われるのを知ると、我々木工業界に携わる者として非常に先が明るくなり希望を感じます。国内流通手段などの問題は残されていますが、もっと国産材比率を増やし、木材を有効使用出来る環境にすべく業界全体で提案しサポートをしていこうではありませんか。(喜)

ご購入いただきました事に感謝申し上げます。当初は刃物講座をと依頼されておりましたが、自分の好きな話題へ脱線が過ぎた事を少し反省しています。しかし、少しでも皆様の心に何かを残せられれば幸いです。ではまた、いつかお会いできます事を祈りまして最後の言葉とさせていただきます。